

北海道の乳がん検診における当院の役割～乳がん死亡率の低下を目指して～
 外科学第一講座 大村東生、鈴木やすよ、亀嶋秀和、澤田 健、九富五郎、
 西川紀子、藤兼智子、平田公一

本邦における乳がん患者数は増加傾向にあり、北海道においても同様で、1年間に約2,100から2,300の方が乳がんと診断されています。教室では乳がん死亡率の低下を目標として視・触診、マンモグラフィ、超音波検査で早期乳癌（0期、I期）の発見に努めています。そのためのシステム作りの一貫として、北海道内、札幌市内の検診施設に当科出身の乳腺専門医、乳腺認定医が乳癌検診を行っています。また、「ピンクリボン in Sapporo」で乳がん検診の啓蒙活動を行っています。

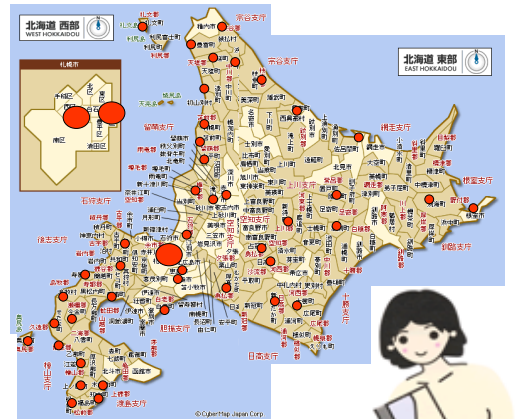
乳がん検診対象女性

検診対象年齢	日本	北海道	札幌市
30歳以上	44,408,000	2,088,000	669,000
40歳以上	35,605,000	1,704,000	546,000
50歳以上	27,864,000	1,334,000	411,000

札幌医科大学第一外科および関連施設の
 乳腺疾患診療体制

	当科	当科出身以外
乳腺専門医	13名	22名
乳腺認定医	12名(専門医を除く)	
MMG 読影医	A判定 8名	23名
	B判定 18名	175名

●教室関係者が検診を行っている市町村

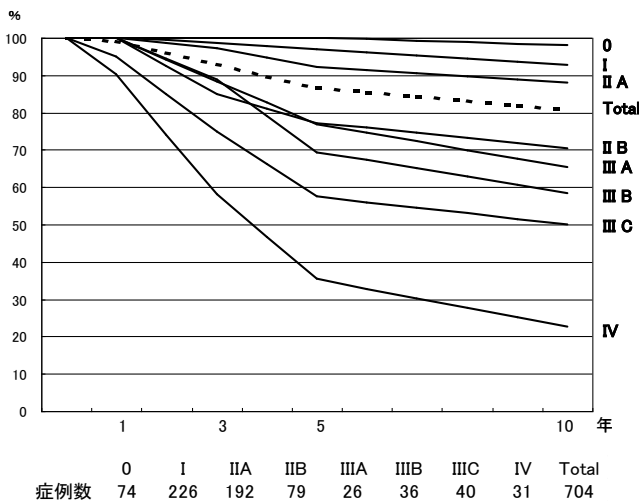


検診による乳がん検出・発見率は0.16～0.19%である。

教室の検診の成績

年度	受診者数	乳癌	乳腺症	線維線腫	その他
平成 15 年度	22900	36	1150	60	156
平成 16 年度	23100	46	1250	70	171
平成 17 年度	22700	44	1200	67	189

教室乳癌症例(1990-2000年)のStage別生存曲線



最近の主な社会活動

乳がん検診受診者の増加を目的にピンクリボン in Sapporo、PTA 母親学級で乳がんについての講演、札幌雪祭りでのマンモグラフィの雪像等、啓蒙活動を行っていることを報告した。(日本乳癌検診学会シンポジウム1—乳がん検診受診者を増やすための取り組み：大村東生、平田公一など



ピンク色の札幌テレビ塔
 2008. 8. 31

乳癌検診目的は乳がん死亡率の低下である。0期、I期乳癌の割合が高くなると生存率が上昇するので、検診の意義がある。